

京セラ、中国広東省の生産工場増設

Edited By LogisticsToday On 2018/08/13



京セラは10日、中国広東省東莞市の主力生産工場「京セラ弁公設備科技（東莞）」の敷地に、昨年7月から着工していた有機感光体「OPC感光体ドラム」の新工場が完成したと発表した。

中国工場は、京セラの主力工場で複合機やプリンターの生産に加え、OPC感光体ドラム（消耗品）の生産も行っている。同社は、複合機やプリンターの受注拡大に伴い、低中速機に搭載されるOPC感光体ドラムの生産増強が急務だとして、OPC感光体ドラムの生産工場を増設することにした。

新工場は、総床面積1万1400平方メートルの3階建てで、OPC感光体ドラムの生産工程で出る排水のリサイクルシステムや、排ガス処理装置を設置するなど、環境にも配慮した。また、当社独自の新生産設備を導入し、ほぼすべての工程を自動化することでOPC感光体ドラムの生産能力を2020年には、現在の2.5倍以上に増強する計画。

■新OPC感光体ドラム工場（第10工場）の概要

名称：京セラ弁公設備科技（東莞）OPC感光体ドラム工場（第10工場）

建設地：中国工場内

建築面積：5000平方メートル

延床面積：1万1385平方メートル（鉄骨造3階建て）

着工：2017年7月

量産開始：2018年8月

生産品目：OPC感光体ドラム

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト：<http://www.logi-today.com>

URL to article：<http://www.logi-today.com/323452>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.